

Kyoto University Public Lecture "Shunju Kougi" Spring 2015

平成 27 年 度 春 季 講 義
京 都 大 学 公 開 講 座

春 秋 講 義

[テーマ] アフリカを考える

4月8日〈水〉

アフリカ人の名前 — 無文字社会における命名法を考える

梶 茂樹 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授

4月15日〈水〉

関係性を紡ぐあざ — アフリカの「妖術」と日本の「因縁」

石井 美保 京都大学人文科学研究所 准教授

4月22日〈水〉

アフリカニストたちの変遷 — 探検から科学技術外交へ

山極 壽一 京都大学 総長

[会場]

京都大学百周年時計台記念館

百周年記念ホール(京都市左京区吉田本町) TEL 075-753-2285

[受講定員] 500名(各講義とも当日先着順)

※当日の入場状況によって、入場制限や立ち見のお願いをさせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

時間: 18:30~20:00(開場18:00)

受講料無料・申込み不要

[主催] 京都大学 [後援] 京都府/京都市

[問い合わせ先] 京都大学事務本部「公開講座 春秋講義」係 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075(753)2233(月~金 9:00~17:00)

FAX 075(753)2246

kinen52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

「京の府民大学」対象講座



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

平成27年度春季講義 京都大学公開講座 春秋講義

春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で
培われてきた知的資源について、
広く学内外の人々と共有を図るため、
1988(昭和63)年秋から開講しています。
年に2回、春と秋にテーマをもうけて講義を行います。

[テーマ]

アフリカを考える

[会場]

京都大学
百周年時計台記念館
百周年記念ホール

(京都市左京区吉田本町)



◆市バス 系統31・65・201・206「京大正門前」下車

系統3・17・203「百万遍」下車

◆京阪電車、叡山電鉄「出町柳」下車、徒歩20分

◆地下鉄東西線「東山」下車、徒歩約25分もしくは

市バス系統31・201・206「京大正門前」下車

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

講義の概要

4月8日<水>

アフリカ人の名前

— 無文字社会における命名法を考える

人名の第一の機能は、個人を他の個人から区別することですが、アフリカの伝統的無文字社会では、人名は同時にテキストとして、様々な出来事・メッセージを記録し伝達する役割を担ってきました。そして現在でもそうです。本講演では、コンゴのテンボ族、ウガンダのニョロ族などの人名を通して、アフリカの伝統的無文字社会が如何に無文字に対処してきたかを考察します。

梶 茂樹

京都大学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授



かじ しげき◎京都大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、助教授、教授を経て、2004年より現職。日本学術会議会員、ベルギー王立科学アカデミー会員、日本語学会会長。著書に、『アフリカをフィールドワークする』(1993年、大修館書店)など多数。

4月15日<水>

関係性を紡ぐあざ

— アフリカの「妖術」と日本の「因縁」

アフリカ社会の多くにおいて、妖術は人を不幸に陥れる超自然的な手段として恐れられています。妖術は、社会における負の感情と結びついているばかりではなく、人々が経験する苦悩を、社会関係を織り込んだ物語へと変換する手段でもあります。とりわけ、「なぜこの私がこんな目に?」という、科学的合理性だけでは答えられない切実な問いに答えることで、人々が社会関係を調整するための技であるといえます。この講義では、私たちに馴染み深い「因縁」という概念との類似性を指摘しながら、アフリカの妖術について考えてみたいと思います。

石井 美保

京都大学人文科学研究所 准教授



いしい みほ◎京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。人間・環境学博士。一橋大学准教授などを経て、2010年より現職。主な著書に『精霊たちのフロンティア—ガーナ南部の開拓移民社会における〈超常現象〉の民族誌』(2007年、世界思想社)、編著に 吉田匡興・花淵馨也・石井美保編『宗教の人類学』(2010年、春風社)など多数。2007年第2回日本文化人類学会奨励賞受賞。2008年第35回澁澤賞受賞。

4月22日<水>

アフリカニストたちの変遷

— 探検から科学技術外交へ

1950年代に始まった日本人によるアフリカの現地調査は、今西錦司によるゴリラの学術探検でした。それはアフリカという未知の世界にあこがれたアフリカニストたちを、さまざまな分野から結集させることになりました。それから半世紀がたち、研究の内容はそれまでの研究成果を踏まえて現地の研究者と共同研究をしながら、科学技術の発展を推進するという方向性を持つようになりました。ゴリラの調査を通じてその変遷と未来の展望について語ります。

山極 壽一

京都大学 総長



やまぎわ じゅいち◎京都大学理学部卒業、同大学院理学研究科博士課程指導認定退学。理学博士。日本学術振興会奨励研究員、京都大学研修員、(財)日本モンキーセンター・リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手を経て、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授。2011~12年度は理学部・理学研究科長を務めた。2014年10月1日より現職。『「サル化」する人間社会』(2014年、集英社インターナショナル)など著書多数。